

紛争・平和と貧困・開発はどのように関連しているのか？

佐藤安信

1. 平和と開発の架橋概念としての人間の安全保障

- 開発は破壊をもたらす：中心にとっての平和は、周辺にとっての暴力ともなる
コトパンジャン・ダム的事例(ビデオ)／フィリピンのナボタス漁港
- 復興援助への開発援助の応用、予防開発、しかし軍事目的利用の可能性
- 人間の安全保障は、開発から平和へ、平和構築は平和から開発へ迫る概念：その相互補完関係が注目される背景は冷戦後内戦／地域紛争の多発、対テロ戦争という非対称の新しい戦争による国内の／国境を越えた人間の不安全＝構造的暴力

2. 平和構築学の 4 つの基礎論

- 紛争管理ガバナンス：非暴力的仕組：民主的政治過程と法の支配、復讐の連鎖を断つための移行期正義(Transitional Justice)：応報的正義(処罰)と修復的正義（和解）
- 紛争分析と紛争要因の縮減：経済、社会などの構造要因と引き金要因を除去するための開発援助－DDR（Disarmament, Demobilization and Reintegration）
- 難民保護／人道支援：人道支援と平和構築のジレンマ：紛争当事者としての難民、紛争の拡大要因としての難民（ルワンダの難民、アフガンの軍閥、人道支援の中立性・政治性、民軍協力と軍事の民営化）、人道支援と復興支援のギャップ、保護の責任（R2P: Responsibility to Protect）と人道的介入（軍事研究との境界領域）
- 人間・文化開発：当事者の自律性向上のための能力強化、外部者の役割：紛争と当事者の実相を理解するための地域研究と、外部者自身の権力性を自覚する関係論（ジェンダー論など）、グローバル・イシューの相互連関の解明とグローバル・ガバナンス（言語、認識、心理、人類、歴史、生命、環境、国際関係などの知見）

3. 平和構築学の方法：難民から学ぶ平和構築：難民とは誰か？誰の平和を優先すべきか？

- 現場主義とは、対象となる人間や社会を実証的に理解すること、事例・比較研究
- 学際的研究の必要性：細分化された専門（縦軸）を総合する横軸、課題別研究
- 民・官・産・学の連携による縦割り弊害の打破：ネットワークとフィードバック
- グローバルなマルチ・アイデンティティの形成とプロフェッショナル리티の創造
- 市民？社会・NGO・CSO？の強化による脱国家（地方分権、地域機構、二国間協定などに役割による国境の相対化に対応するグローバル・ガバナンスの構想）とフィードバック(循環)型の社会への脱皮